精神科病院における暴言・暴力に対する医療安全の取り組み

和歌山県立こころの医療センター
医療安全推進担当　山中大城

当センターは、有田郡有田川町に位置する病床数 300 床の単科精神科病院です。和歌山県全域における精神科救急医療に加え、難治性精神疾患、アルコール等の依存症、児童・思春期精神疾患、認知症の治療や認知行動療法等専門性の高い医療を提供し、県精神科医療の中核病院としての役割を担っています。

令和２年度に医療安全推進担当が設置され、専従者１名体制で活動しています。今年度、前任者から引き継いだばかりです。院内リスクマネジメント部会と連携し、医療安全に関する情報収集や分析、院内のラウンド、職員に対する教育など、医療事故を未然に防止する活動を推進し、患者が安心して療養できる医療と環境を提供できるよう取り組んでいます。

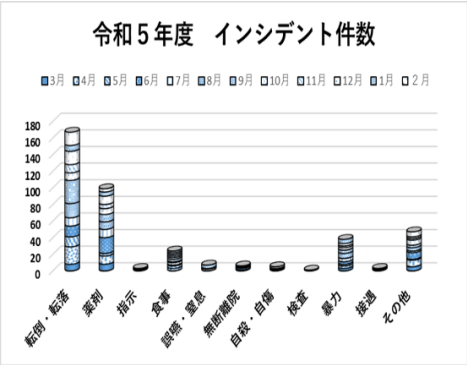
入院患者の高齢化や向精神薬の影響で、昨年度も「転倒・転落」のインシデントが最も多く発生しました。未然防止を図るとともに、発生後の対応を迅速かつ的確に行うことにより、患者への身体及び生命への影響を最小限に抑えられるよう、ソフト・ハードの両面から具体的な取り組みを行っています。具体的には、入院時の転倒転落アセスメントシート作成、および処方変更時の転倒転落アセスメントシートスコアの見直し、体操や散歩による下肢筋力強化、履物の改善やヘッドガード着用などの患者教育、緩衝マットや離床センサーの使用などを実施しています。「薬剤」や「指示」の間違いに対しては「復唱確認」の徹底を図るなどの対策を実施しました。繰り返される事案など、リスクマネジメント部会で重要と判断された事案については、当該部署でＰｍ-ＳＨＥＬＬモデル分析の実施や、「対策の実施状況と評価」様式を作成するなど、ＰＤＣＡサイクルを回しています。

精神症状に影響された「患者間や職員への暴力」も毎月発生しています。暴力リスクの高い患者に対しては、患者-看護師間の信頼関係構築を基本として、複数名での対応で暴力防止に努めています。暴力発生時の対策として、防犯ブザーの携帯や SOS ボタンの設置、緊急放送など院内の応援体制や、警備会社や警察との連携体制の整備もしています。さらに CVPPP（包括的暴力防止プログラム）インストラクター・トレーナーによる研修の定期的な実施にも取り組んでいます。最近では、児童・思春期の入院も受け入れているため、発達障害の衝動性による暴力や療育環境の影響による暴力行為が増加しています。対策としては、

暴力行為はいかなる場合でも許されないと伝えることを基本としています。暴力行為の背景の理解や病棟職員の統一した対応、また患者と一緒に振り返りを行い、暴力を受けた人がどんな気持ちになるかを言語化し指導していくことも大切です。

令和5年度 インシデント件数

	転倒・転落	薬剤	指示	食事	誤嚥・窒息	無断離院	自殺・自傷	検査	暴力	接遇	その他	計
3月	8	8	0	0	0	1	0	0	3	0	5	25
4月	21	10	0	3	0	0	0	0	3	0	8	45
5月	12	3	1	3	0	0	0	0	2	0	1	22
6月	13	19	0	1	0	2	0	0	3	0	8	46
7月	10	10	1	3	0	0	1	0	4	0	2	31
8月	17	9	0	1	0	0	0	1	6	1	4	39
9月	28	9	1	3	0	1	1	0	4	0	3	50
10月	9	7	0	2	2	0	0	0	3	0	6	29
11月	10	5	0	2	1	0	1	0	2	0	2	23
12月	16	10	0	2	0	1	0	0	3	0	2	34
1月	7	5	0	2	4	0	0	0	5	1	0	24
2月	16	4	0	2	0	1	2	0	0	1	6	32
合計	167	99	3	24	7	6	5	1	38	3	47	400



医療安全推進では、院内スタッフから提出されたインシデントレポートを日々集約しています。最近は、年間約４００件のインシデント報告があります。その中には、職員一人ひとりの注意や臨機応変な対応（スキル）で、事故を回避している場面も多く存在し、インシデント対応として印象に残ったレポートや報告があります。そのスキルに着目し、重大事故を未然に防いだ事例や気づき・アイデアなどに対して、「医療安全情報メール」「Good job 通信」「ナイスレポート報告」と銘打った院内メールを、昨年度は 14 回発信しました。インシデントレポートが提出されるよりも早く、毎朝の看護部の朝礼でインシデントが報告され、迅速な情報共有と対策が実施されています。月１回のリスクマネジメント部会で、集計された１か月間の全部署のインシデントレポートが配布され、リスクマネジメント委員によって各部署で情報共有されています。

また、患者・家族が不利益を受けないよう、幅広く多様な相談に対応するため、医療安全に関する相談窓口を開設しています。医療事故や暴力に遭った職員のメンタルサポートの役割も担当しています。インシデント・アクシデントに関わらず、入院患者や家族とのトラブルなどの相談等を病棟スタッフから受けています。また、県の公認心理士による職員向け職場訪問ストレス相談も、最近実施されました。

医療安全情報

令和５年 12 月度

「職員の安全を守る」

SOS ボタンの設置

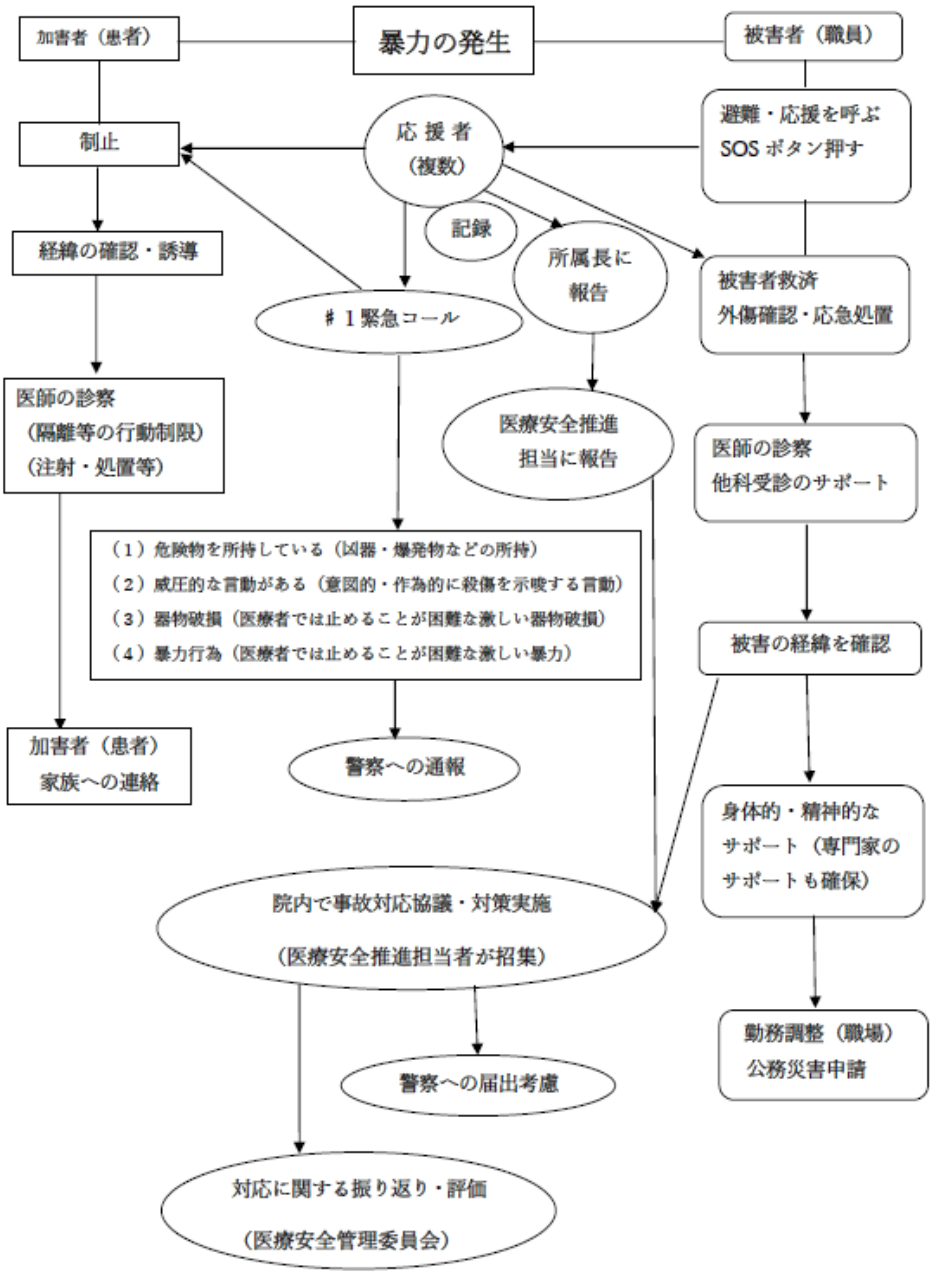
平素は医療安全推進活動にご協力をいただきましてありがとうございます。
「職員の安全を守る」対策として、１階西病棟と２階西病棟に「SOS ボタン」の設置が完了しました。（下の写真参照）

こんな時は SOS ボタンを押す！
★患者さんの突発的な行動や粗暴・不穏・暴言・暴力などで自身の身に危険を感じた時や応援が必要な時
（例）
・病室で患者さんに一人で対応していたら、急に患者さんが怒鳴りだし、「誰か応援に来てほしい！」と思った時。
・保護室内で複数で対応していたが、暴力行為が出現しさらに応援が必要となった時。
・個室隔離の患者さんがドアを開けた際、無理に出てこようとして対応しきれなくなった時。
などなど

今後、実用性や改善点などを抽出し、他部署・他病棟への設置に向けて計画的に進めていきいと考えます。

＊患者さんと職員の安心・安全を確保する活動にご協力をお願いします。

医療安全推進担当

CVPPP 研修

暴力事故対応のフローチャート
（職員への暴力の場合）